

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその先行実践を通じた授業と評価の改善が求められる。充実した新課程初年度に向け、実践事例や解説記事によって現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

育成を目指す資質・能力の設定と実践

実践レポート

生徒の実態から育成を目指す資質・能力を設定し、科目別ルーブリックで授業改善を図る

秋田県立湯沢高校

秋田県立湯沢高校では、2019年度からカリキュラム・マネジメントの観点での教育活動の見直しに着手。各教科・科目において、資質・能力の育成に向けた授業改善の取り組みを続けることを通じて、22年度からの新教育課程実施の素地づくりを行っている。

Q1 育成を目指す資質・能力と

それを達成するための教育活動を検討した経緯

A1 生徒に対して感じていた課題やこれからの社会で求められる資質・能力を教師間で語り合う中で、授業を始めとする教育活動の改善への機運が高まった

教師間の対話の中で「湯高力」の土台を形成

吉田功教頭 本校は、2019年度から秋田県の探究活動等実践モデル校の指定を受け、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業

改善やカリキュラム・マネジメントの推進に取り組んでいます。近年、本校でも、生徒の気質の変化や入学段階での基礎学力の低下などが指摘される中、地域の進学校として、生徒や保護者の期待に応えるために、学校改革の必要性を

感じていました。そこで、ベネッセの秋田県担当者に相談し、資質・能力の育成を目的とした教育活動の見直しについての研修を実施してもらいました。これからの社会で求められる資質・能力について考えた時、目の前の生徒にはどんな資質・能力が不足しているのかを言語化する中で、本校の教師に、いわゆる「見えにくい学力」「見えない学力」をもっと生徒に育成する必要があるという共通認識ができていきました。

田口朋美先生(探究活動推進委員) 研修では、「生徒は素直だけれど

設立 1943(昭和18)年
形態 全日制/普通科・理数科/共学
生徒数 1学年約200人
2020年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、岩手大、東北大、秋田大、山形大、新潟大などに79人が合格。私立大は、東海大、東洋大、日本大、明治大、神奈川大、同志社大などに延べ155人が合格。

も、もっとと主体性がほしい」「土台となる体験が少ないのではないか」「社会問題について、知識はあっても課題が自分ごとになっていない」など、生徒について感じていた課題やあるべき姿を整理しました。それらが、各教科・科目

の授業と「総合的な探究の時間」、そして特別活動を往還する資質・能力の育成に取り組むその後の活動の出発点になりました。また、研修で話した内容が、育成を目指す資質・能力「湯高力」へとつながっていききました。

Q₂ 改革に取り組んだ1年間での進捗とその成果

A₂ 育成を目指す資質・能力「湯高力」についてのルーブリックを作成し、各教科・科目のルーブリックへと落とし込んだ

ミドル層による牽引で、改革はスピーディーに進行

平田恵子先生(探究活動推進委員) 私たちが参考にしたのは、青森県立青森高校の取り組みです(『VIEW21』高校版19年4月号P.6~9)。19年12月には、育成を目指す資質・能力「湯高力」を、本

校の校訓と「資質・能力の3つの柱」ともつげながら、8つに設定しました(図1)。そして、「学びの段階」と名づけたルーブリックを作成することで、生徒が自分の到達状況を振り返ることができるようになりました。その後3か月ほどかけて、各教科団で、科目ごとの「湯高力」の到達段階を言語

図1 育成を目指す資質・能力「湯高力」

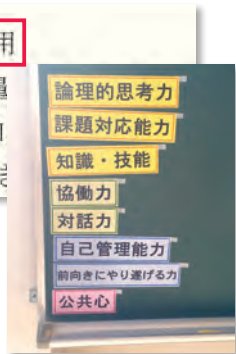
要 点	湯沢高校生として身につける資質・能力						評価の方法	
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性			
	校訓 湯高力	よく学びよく遊ぶ	互いの意見を尊重せよ	真実を喜び正しく歩め	前向きにやり進める力	胸思の届きいませ		
活用 (使える)	◆各教科・科目の学習内容を十分に理解し、身につけた知識・技能を生かして、自ら積極的に発展的な内容に取り組むことができる。 ◆身につけた知識・技能を応用しながら論理的に思考したり、総合的に捉えて「課題」よりよきたり、従来の社会問題等への課題解決に向けた自らの考えを持ち、行動することができる。	◆さまざまな視点からアプローチして課題を分析し、状況に応じて適切に判断することができる。 ◆授業中の疑問や課題を積極的に質問することができる。	◆課題に対して解決策を導き出し、根拠を明確にして説明することができる。 ◆相手の立場を尊重して他者に働きかけ、理解を深めたい、集団を前向きな方向に動かすことができる。	◆自発的に問題解決に向けた方向性について議論し、合意を形成することで、行動目標を設定することができる。 ◆このことを受けて、異なる立場で協力し合い、ともに集団を前向きな方向に動かすことができる。	◆自己管理力 ◆社会的課題を自らも関わる課題と考え、将来への長期的な展望をもつことができる。 ◆その展望に向けて、自己分析と修正を行いながら努力し続けることができる。 ◆その展望に向けて、自己分析と修正を行いながら努力し続けることができる。	◆前向きにやり進める力 ◆このことを受けて、明確な分析と計画に基づき、前向きな姿勢で困難を乗り越えることができる。 ◆このことを受けて、明確な分析と計画に基づき、前向きな姿勢で困難を乗り越えることができる。	◆胸思の届きいませ ◆自己や社会における様々な状況に対し、言葉や態度について多角的に捉えることができる。 ◆自己の経験となる高い規範意識を持つことができる。	◆学力テスト ◆ポスターセッション ◆発表論文 ◆レポート ◆自己評価シート
学びの段階 (できる)	◆各教科・科目の基礎・基本となる学習内容を十分に理解し、授業内で学んだ学習活動に主体的に取り組む、学習内容について他者に伝え、理解させることができる。 ◆自身の学習において、基本的な事項をもとに、自ら学習課題を設定し、課題の解決に向けて取り組むことができる。	◆授業中の疑問や課題を積極的に質問し、課題解決へ向けたアプローチを明らかにすることができる。 ◆授業中の疑問や課題を積極的に質問し、課題解決へ向けたアプローチを明らかにすることができる。	◆自分の意見と他者の意見の一致点や相違点を整理し、話し合う中で、合意し問題点をよりきりきりさせることができる。 ◆自分の意見と他者の意見の一致点や相違点を整理し、話し合う中で、合意し問題点をよりきりきりさせることができる。	◆話し合いの中で意見を表現したり、他者の意見を受け入れて取りまとめることができる。 ◆このことを受けて、異なる立場で協力して行動に移すことができる。	◆自己の価値観や価値観を振り返ることができる。 ◆前向きにやり進める力 ◆このことを受けて、明確な分析と計画に基づき、前向きな姿勢で困難を乗り越えることができる。	◆胸思の届きいませ ◆自己や社会における様々な状況に対し、言葉や態度について多角的に捉えることができる。 ◆自己の経験となる高い規範意識を持つことができる。	◆学力テスト ◆ポスターセッション ◆発表論文 ◆レポート ◆自己評価シート	
習得 (わかる)	◆各教科・科目の基礎・基本となる学習内容を理解し、授業内で学んだ学習活動に主体的に取り組む、学習目標を達成することができる。 ◆基礎・基本となる学習内容を理解するための準備として授業に取り組むことができる。	◆授業に対して疑問を持ち、解決に向けて得られた情報を基に考察する姿勢が身につくことができる。 ◆授業に対して疑問を持ち、解決に向けて得られた情報を基に考察する姿勢が身につくことができる。	◆相手の意見と自分の意見の一致点や相違点を整理し、話し合う中で、合意し問題点をよりきりきりさせることができる。 ◆自分の意見と他者の意見の一致点や相違点を整理し、話し合う中で、合意し問題点をよりきりきりさせることができる。	◆他者の主張を尊重すること、自分の意見を表現し、また他者の意見を聞きながら、集団の中で役割を果たすことができる。 ◆このことを受けて、異なる立場で協力して行動に移すことができる。	◆基礎的な学習態度が確立でき、この重要性について理解している。 ◆求められる目標や期限に向けて行動することができる。	◆求められている規範や役割を理解している。 ◆自己や社会における様々な状況に対し、言葉や態度について多角的に捉えることができる。 ◆自己の経験となる高い規範意識を持つことができる。	◆学力テスト ◆ポスターセッション ◆発表論文 ◆レポート ◆自己評価シート	
場 面	授業 探究活動 週末課題 自学	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 HJ活動 学校行事 部活動	
学校行事		生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	

※学校資料をそのまま掲載。

写真 「湯高力」の育成に向けた実践

12 **湯高力**【課題対応力】利用～活用
 水平であらい床面上にある質量
 水平方向に大きさ F [N] の力を加
 は一定の速さ 0.50 m/s で力の向き

吉田教頭は、担当する物理の定期考査の各問題に「湯高力」の段階を示した(写真上) / 各教室の黒板には、「湯高力」を明記したマグネットシートを設置。授業の内容に応じて生徒に示すことで、「湯高力」と「授業」のつながりを意識させている(写真右)



化していききました(図2)。また、青森高校の先生を本校にお招きし、教育目標や校訓を自校で育成を目指す資質・能力に落とし込む際の考え方などを教えていただきました。

田口先生 「湯高力」の検討の中心的な役割が、30代から40代のミドル層の教師に任されていたことも、改革の推進力を高めました。生徒の課題を自身の経験を基に語

ることができ、学校を変えようというエネルギーを持つ世代の教師が議論を牽引しました。

平田先生 20年5月には、改めて「湯高力」の必要性とそれを軸にした授業のあり方についての校内研修を行いました。資質・能力の育成につながる授業実践には、「湯沢高校生の目指す姿」に対する教師の深い理解が不可欠ですから、その後も様々な研修を実施しました。

吉田教頭 「湯高力」は、各授業において生徒の学びに変化を起こして初めて浸透したと言えます。私は物理の授業を担当していますが、定期考査の各問題に「湯高力」の段階を表示する試みを始めています(写真)。生徒の意識づけだけでなく、私自身の作問の姿勢にもよい影響を与えていると実感しています。

小西雅典先生(教務主任) これまでの学習は、ややもすれば、与えられた問題をただ解いていくだけの単調な営みに陥っていました。しかし、学習に興味や目標が見いだせれば、日々の学習にもっとメリハリがつくはず。その

ることで、学校を変えようというエネルギーを持つ世代の教師が議論を牽引しました。

平田先生 20年5月には、改めて「湯高力」の必要性とそれを軸にした授業のあり方についての校内研修を行いました。資質・能力の育成につながる授業実践には、「湯沢高校生の目指す姿」に対する教師の深い理解が不可欠ですから、その後も様々な研修を実施しました。

吉田教頭 「湯高力」は、各授業において生徒の学びに変化を起こして初めて浸透したと言えます。私は物理の授業を担当していますが、定期考査の各問題に「湯高力」の段階を表示する試みを始めています(写真)。生徒の意識づけだけでなく、私自身の作問の姿勢にもよい影響を与えていると実感しています。

意味では、「湯高力」を各科目のルーブリックに落とし込み、評価方法も一覧化したのは大きな一歩です。今後は、さらに各単元の目標も「湯高力」で提示することにより、授業は大きく変わっていくと思います。

小松弘樹校長 私は20年度に本校

図2 科目における「湯高力」のルーブリック(『国語総合』)

科目		国語総合【現代文・古典】		授業時数	適5単位
				履修学年・類型	1学年
目標 国語を的確に理解する能力を育成し、適切な表現を通して伝え合ふ力を高め、思考力や想像力を伸ばし、言語文化に対する関心を深める態度を身につける。					
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
湯高力	【知識・技能】	【課題対応能力】【論理的思考力】【対話力】	【協働力】【自己管理能力】【前向きにやり遂げる力】【公共心】		
活用(使える)	●語彙力と読解のための技法を使い、複雑な論理展開ができる。また、抽象度の高い語彙や表現を使いこなすことができる。 ●古典の読解を通して古代の知恵を自己のものにし、他の古典作品の読解に役立てることができる。	●複雑な論理展開や難解な表現を分析して、わかりやすく説明したり、自らの考えを論理的に表現したりできる。 ●他作品と比較しながら、その作品の特色をつかむことができる。	●広く社会に目を向け、現象から原理を導き出したり、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。 ●現代の人の知恵を自己のものにし、現代の社会や人の在り方について探究しようとする力を身に付けている。		
学びの段階	●論理の構成や表現技法を理解し、論理的文章や文芸作品を読むことができる。また、自分の考えを表現することができる。 ●古語や古典文法、古典の背景を踏まえて古典作品を理解することができる。	●論理の展開や表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確に捉え、表現することができる。 ●既習作品の内容を踏まえ、他の古典作品を読むことができる。	●論理的・効果的に、自分の考えを他者と伝え合おうとする力を身に付けている。 ●古典作品を自ら手に取り、古代人の知恵や歴史を眺めようとする力を身に付けている。		
習得(わかる)	●語句の意味や基本的な文法の意味を正確に理解し、ついで、「話す・聞く・読む・書く」ができる。 ●古代の語句や基本的な文法を理解し、古典を読むことができる。	●基礎的な読解力・文法力に基づき筋道を立てて考え、それを表現することができる。 ●基本的な読解力・文法力に基づき、文脈を捉えながら内容を捉えることができる。	●積極的に語彙力を高め、話し・聞き・読み・書き、言語生活を豊かにしようとする態度を身に付けている。 ●古典の世界に関心をもち、文学作品に触れようという態度を身に付けている。		
評価方法	・授業時の観察 ・小テスト ・定期考査	・授業時の観察 ・定期考査 ・実力テスト	・授業時の姿勢や意欲 ・自主的な取り組み		

に赴任しました。既に改革は始まっていましたから、私は、先生方に高い視座を持ってもらうことを心がけました。そして、探究学習やICT活用の先進校の教師や管理職、さらにファシリテーションの専門家を学校に招き、研修会を行いました。

19年度末には、すべての科目において、育成を目指す資質・能力の到達状況を3段階で示し、評価方法を一覧化。20年度は、授業改善につながるよう、公開授業、研究授業などの機会に、「湯高力」の育成を目指した授業のあり方を各教科で話し合った。

※学校資料をそのまま掲載。



校長
小松弘樹
こまつ・ひろき

教職歴35年。同校に赴任して1年目。



教頭
吉田 功
よしだ・いさお

教職歴32年。同校に赴任して2年目。理科（物理）。



教務主任
小西雅典
こにし・まさのり

教職歴31年。同校に赴任して1年目。数学科。



探究活動推進委員
田口朋美
たぐち・ともみ

教職歴20年。同校に赴任して2年目。芸術科（美術）。



教務部・
探究活動推進委員
平田恵子
ひらた・けいこ

教職歴18年。同校に赴任して3年目。国語科。

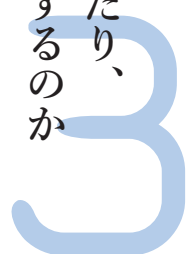
※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

A₃

これまでの取り組みを評価・検証し、現行課程の教育活動を充実させながら、新課程1期生を迎える準備を進める

Q₃

新課程1期生を迎えるにあたり、21年度はどのような1年とするのか



授業を中心とした 教育改革を推進

小西先生 22年度から始まる新課程の編成を進める中で、今まで以上に授業中心主義を徹底させるため、1コマあたりの時間を見直すとともに、朝補習を廃止することになりましたが、朝補習の廃止や授

業時間の見直しは、22年度を待たずに今年度から先行して実施します。一つひとつの授業のねらいを意識しながら主体的に学ぶことで、補習に頼らなくても「学力」を含む「湯高力」は向上させることができるということを、生徒に強く発信していきます。

小松校長 「湯高力」の生徒への浸透の状況を見ながら、「湯高力」そのものや、ルーブリックの改良を図っていきます。特に、「湯高力」が、教育活動の本丸である授業の改善に結びついているのかをしっかりと見ていかなければいけません。そのためにも、「湯高力」を単元別の授業計画に落とし込み、観点別学習状況の評価の検討と実践を通じて、学校全体の教育改革を推進することが最大のテーマとなります。特別活動や「総合的な探究の時間」にも「湯高力」をひもづけ、各活動の充実を図り、授業と往還させながら、生徒に資質・能力を豊かに育んでいきたいと考えています。

新課程に関する情報は、
『**ハイスクールオンライン**』で
お届けします！



事例・解説

観点別学習状況の評価のポイント

新教育課程の参考になる特設コーナー設置



動画解説

有識者による

新課程の動画解説も満載